

サイクリング協会 現場内・工事間利用促す

新名神 建設汚泥30万³m³自ら利用

泥土リサイクル協会（木村孟理事長、60社）は8月25日、愛知県名古屋市内で第19回通常総会を開催した。2022年度実績報告、23年度事業計画案等を審議し原案通り承認した。今年度は①泥土（建設汚泥）の現場内・工事間利用の促進②泥土リサイクル、循環資源リサイクルを促進するためのステークホルダー間の関係構築③災害廃棄物再生利用における啓発活動を中心に取り組んでいく。



片桐潔副理事長

冒頭のあいさつで片桐副理事長は「台風や線状降水帯による水害が全国で発生しており災害廃棄物が適正かつ円滑、迅速に処理されることで一日も早い復旧を願っている。一方で不適切な泥土リサイクルが散見されており、建設発生土（残土）との線引きが曖昧なことが要因とみられる。当協会は建設リサイクルの技術革新を促すことも

冒頭のあいさつで片桐副理事長は「台風や線状降水帯による水害が全国で発生しており災害廃棄物が適正かつ円滑、迅速に処理されることで一日も早い復旧を願っている。一方で不適切な泥土リサイクルが散見されており、建設発生土（残土）との線引きが曖昧なことが要因とみられる。当協会は建設リサイクルの技術革新を促すことも

冒頭のあいさつで片桐副理事長は「台風や線状降水帯による水害が全国で発生しており災害廃棄物が適正かつ円滑、迅速に処理されることで一日も早い復旧を願っている。一方で不適切な泥土リサイクルが散見されており、建設発生土（残土）との線引きが曖昧なことが要因とみられる。当協会は建設リサイクルの技術革新を促すことも

冒頭のあいさつで片桐副理事長は「台風や線状降水帯による水害が全国で発生しており災害廃棄物が適正かつ円滑、迅速に処理されることで一日も早い復旧を願っている。一方で不適切な泥土リサイクルが散見されており、建設発生土（残土）との線引きが曖昧なことが要因とみられる。当協会は建設リサイクルの技術革新を促すことも

冒頭のあいさつで片桐副理事長は「台風や線状降水帯による水害が全国で発生しており災害廃棄物が適正かつ円滑、迅速に処理されることで一日も早い復旧を願っている。一方で不適切な泥土リサイクルが散見されており、建設発生土（残土）との線引きが曖昧なことが要因とみられる。当協会は建設リサイクルの技術革新を促すことも

冒頭のあいさつで片桐副理事長は「台風や線状降水帯による水害が全国で発生しており災害廃棄物が適正かつ円滑、迅速に処理されることで一日も早い復旧を願っている。一方で不適切な泥土リサイクルが散見されており、建設発生土（残土）との線引きが曖昧なことが要因とみられる。当協会は建設リサイクルの技術革新を促すことも

冒頭のあいさつで片桐副理事長は「台風や線状降水帯による水害が全国で発生しており災害廃棄物が適正かつ円滑、迅速に処理されることで一日も早い復旧を願っている。一方で不適切な泥土リサイクルが散見されており、建設発生土（残土）との線引きが曖昧なことが要因とみられる。当協会は建設リサイクルの技術革新を促すことも